

香川県三豊市（国内 28 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 17 日実施）

令和 2 年 12 月 17 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部にあり、付近は山林に囲まれ、ため池が隣接しており、農場入口は一般道に面している。
- ② 農場に隣接するため池では、調査時にカルガモ 1 羽、ホシハジロ 5 羽、カワウ 1 羽、カイツブリ 2 羽等の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には開放鶏舎 2 棟があり、発生時はすべての鶏舎で、肉用鶏が飼養されていた。発生鶏舎は、農場入口側に位置する鶏舎であった。
- ④ 当該農場から約 1km の距離に疫学関連農場が位置していた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は 4 羽程度で推移していたところ、12 月 11 日に 13 羽の死亡鶏が確認された。来場した系列会社の担当者が解剖したところ、クロストリジウムを疑う所見が確認されたことから、抗菌剤を投与し、経過を見ていたとのこと。
- ② 管理人によると、12 月 15 日に 34 羽の死亡鶏が発生鶏舎内において散在して確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 管理人によると、家畜保健衛生所に通報した後、再び発生鶏舎を確認したところ、さらに 11 羽の死亡鶏が散在して確認されたとのこと。その際、肉冠の異常等は確認されなかったとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では管理人 1 名が管理を行っており、疫学関連農場でも当該管理人が 1 名で管理を行っている。
- ② 管理人によると、毎日、両農場の鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収していたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は当該農場及び疫学関連農場における作業時に、同じ作業着、長靴を使用していたとのこと。鶏舎に入る際、長靴の交換及び踏み込み消毒、手洗いを実施していたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水が使われており、鶏舎内の貯水タンクに貯蔵し、鶏舎に供給されている。
- ④ 鶏糞の処理は、オールアウト後に業者に委託して排出していたため、今回の発生鶏群については、鶏糞の排出はなかった。
- ⑤ 管理人によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、毎日、系列農場入口にある焼却炉へ搬出し、処理していたとのこと。
- ⑥ 管理人によると、鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 管理人によると、今年 11 月の香川県での高病原性鳥インフルエンザの発生以降、鶏舎入口付近に消石灰を散布し、消毒を定期的に行なっていたとのこと。
- ⑧ 管理人によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、車両の消毒として農場入口に消石灰を散布しており、今年 11 月の香川県での高病原性鳥インフルエンザの発生以

降は、車載の蓄圧式噴霧器による消毒を行っていたとのこと。

- ⑨ 発生鶏舎の側面は網（マス目は約 3cm×4cm）とその外側にはロールカーテンが設置されている。管理人によると、発生時には、ロールカーテンは、日中は一部開放しており、夜間はすべて閉鎖していたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 当該農場の側面の金網や外側のロールカーテンには大きな破損や隙間は認められなかった。
- ② 管理人によると、鶏舎内でネズミ及びネズミの糞を見かけることはあったが、定期的なネズミ対策は行っていなかったとのこと。調査時には、ネズミ類が嚙って開けたと思われる天井の穴が発生鶏舎で確認された。
- ③ 管理人によると、普段から農場敷地内でカラスやネコ等を見かけることがあるが、鶏舎内でこれらの野生動物を見ることはなかったとのこと。調査時には、同じ鶏舎構造である隣接鶏舎の網を小型の野鳥が通過し、鶏舎内に入り込んだ様子を確認した。